

拝啓、私へ

釧路市立美原中学校 佐々木碧 3年

拝啓、たくさんの私へ。未来という言葉が嫌いだった私へ。私からすれば、貴方達こそが「未来」で、何より嫌いな存在なのだけれど、貴方達は未来を好きになったのだろうかと思ったりもして。だって貴方達は「今」が大好きなのだから。私と同じで。

二〇二九年、ハタチになった私へ。「お酒なんか嫌い」と思っている私のことなど忘れて、大学の友人達と飲みに行ってしまうんでしょう。そんな貴方が嫌い。

二〇三二年、二十三歳、社会人一年目の私へ。「音楽関係の仕事に就くんだ」と思っている私の夢を諦めて、一般企業に就職するんでしょう。そんな貴方が嫌い。

二〇五四年、四十五歳の私へ。ずっと「人の上に立つのは無理だ」と言っている私を置いて、上司として責任をもって仕事をしているのでしょうか。そんな貴方が嫌い。

今が一番楽しいのに、幸せなのに、どうして未来は訪れるのだろうか。私も、私をとりまく環境も変わってしまう。それが何より悲しい。寂しいと思ってしまう。あと何日、今隣にいる人と笑いながら話せるのだろうか。あと何日、私は私でいられるのだろうか。私の人生はいつ終わってしまうのだろうか。それが怖い。

でも、それでも、私の「過去」はすばらしかったと胸を張って言える。昔の私は今の私を否定するかもしれない。「未来なんか訪れなくていい」と突き離されるかもしれない。けれど今の私は、昔の私のおかげで存在しているのだからそこにはまぎれもない感謝と愛がある。これからのことなんて誰にも分からない。けれど全ては変わってゆく。私の嫌いな未来は必ず訪れる。そのときに、過去を愛することができるように、私は生きてゆきたいのだ。いつか来る終わりのときに、「幸せだった。」と思えるように。だから、どうか貴方も、「今」を大切にしてほしい。貴方がどのような生き方を選んでいるのか、私には分からないけれど、さらにその先の「私」が、貴方を愛してくれるように。

ああそれと、最後にもう一つ。私は貴方が嫌いだけれど、貴方という可能性を信じている。私は貴方を信じて、貴方に私の全てをたくすから。だからどうか、幸せになれ、私。